



《将来に向けた取組方針》

リコーグループは、生物多様性の保全が真に豊かで持続可能な社会の構築につながると考え「ネイチャーポジティブ」と「森林破壊ゼロ」社会の実現を目指し、様々な活動に取り組んでいます。「生物多様性方針」「リコーグループ製品の原材料木材に関する規定」「用紙調達方針」を制定し、これらの方針・規定に基づき事業活動における取組を実施しています。また、地球温暖化防止、持続可能なコミュニティ発展の観点からも森林保全が重要と考え、「100万本未来の森プロジェクト」による森づくりを進め、「生物多様性のための30by30アライアンス」へ参画するなど、森林保全活動においても積極的な取り組みを行っています。

《活動状況》

<製品調達>

「リコーグループ製品の原材料木材に関する規定」に沿って木材・紙製品の調達とサプライヤー対応を進めてきました。森林伐採ゼロに向けたリスクマネジメントを強化し持続可能な調達を実現するため、2022年にはグローバル紙調達プロジェクトを発足させて、グローバル横断活動を実施しています。

<森林保全>

2020年「100万本未来の森プロジェクト」として、MFP販売台数に応じた植林活動を開始しました。また、「生物多様性のための30by30アライアンス」へ参画し、「リコーえなの森」（岐阜県恵那市）と「リコー環境事業開発センター」（静岡県御殿場市）が自然共生サイトとして認定を受けています。

3. 100万本未来の森プロジェクト開始 2020年～

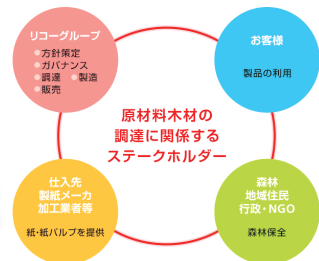
地域住民と一緒にマングローブの森とその生態系の重要性を共有し、環境教育や植林活動を通じてマングローブの森の再生を実施しています。



《取組事例》

1. グローバル紙調達プロジェクト 2022年～

毎月グローバルメンバーでの定例会議で情報を共有し、持続可能な調達を実施していくため、ステークホルダーと一体となった活動について検討しています。



2. 環境省 30by30自然共生サイト リコーえなの森 2023年～

豊かな自然環境と共生できる郷土の森を目指しています。地域のボランティアや社員が一丸となって、植生調査を実施し、保全状態を把握し生態系を維持しています。

(実績) 2010年以降、目標種(ギフチョウ、ハッチョウトンボ)の生息確認。

